

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: 炭酸水素ナトリウム (食品添加物)

製品番号(SDS NO): D005152-1

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途: 食品添加物

供給者情報詳細

供給者: 国産化学株式会社

住所: 東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署: 品質保証部

電話番号: 045-328-1715

FAX: 045-328-1716

e-mail address: cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先: 国産化学株式会社 横浜事業所 神奈川県横浜市西区北幸2-8-29

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素

絵表示なし

注意喚起語なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:

化学物質

化学的特定名: 炭酸水素ナトリウム

慣用名、別名: 重炭酸ナトリウム、重炭酸ソーダ、重曹

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	化学式
炭酸水素ナトリウム	99 ≤	144-55-8	1-164	CHNaO3

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

眼：発赤

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

この製品自体は燃焼しない。

消火を行う者への勧告

消火を行う者の保護

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃き集めて、容器に回収する。

二次災害の防止策

汚染箇所を水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

局所排気、全体換気

排気/換気設備を設ける。

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

ばく露防止

設備対策

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状：固体

色：白色

臭い：無臭

pH：8.3 (0.1M水溶液、25°C)

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

融点/凝固点：(decomposes) 50°C

分解温度：50°C

燃焼性(固体、ガス)：不燃性

比重/密度：2.1

溶解度

水に対する溶解度：8.7 g/100 ml (20°C)

溶媒に対する溶解度：アルコールに不溶。

10. 安定性及び反応性**化学的安定性**

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

50~100°Cで分解し、二酸化炭素を放出し炭酸ナトリウムとなる。

避けるべき条件

熱、混触危険物質との接触。

混触危険物質

酸

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

11. 有害性情報**毒性学的影響に関する情報****急性毒性****急性毒性(経口)**

[日本公表根拠データ]

ラットのLD50値として、> 4,000 mg/kg、7,334 mg/kg、4,220-8,290 mg/kg の報告(SIDS(2004))に基づき、区分外とした。

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

ラットのLD50値として、> 2,000 mg/kg の報告(農薬工業会(1996))に基づき、区分外とした。

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

ラットのLC50値として、> 4.74 mg/L(4.5時間)(4時間換算値：5.33 mg/L)の報告(SIDS(2004))

に基づき、区分外とした。なお、試験実施方法の記載から粉じんによる試験とみなして mg/L を単位と

する基準値を適用した。

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]

ウサギを用いたテストガイドラインに準拠した試験において極めて軽度の刺激（皮膚一次刺激性スコア=0.3）との結果（SIDS（2004））に基づき区分外（国連分類基準の区分3）とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

SIDS（2004）に5例のデータが報告されており、信頼性の高いEPA TSCAガイドラインに準拠した試験で24時間後のスコア値（MMTS）が8.3（わずかな刺激性）との報告があることから区分外（国連分類基準の区分3）とした。

感作性データなし

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

データ不足のため分類できない。すなわち、in vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験及び哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である（SIDS（2004））。

発がん性データなし

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

データ不足のため分類できない。なお、マウス、ラット、ウサギを用いた経口経路（強制）による発生毒性試験において、発生毒性はみられていない（SIDS（2004））。生殖能に関する報告は得られていない。

催奇形性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

[会社固有データ]

経口経路の報告は全てガイダンスの範囲外（3,000-9,000 mg/kg）の用量を投与した試験であり、自発運動の抑制、歩行失調、浅呼吸など一時的な症状がみられたが後に回復している（SIDS（2004）、農業工業会（1996））ことから、区分3（麻酔作用）とした。なお、ラットの吸入ばく露（ミスト）においては、ガイダンスの上限近傍の濃度（4.74 mg/L）で、一時的な運動抑制、円背位、流涙、鼻汁がみられたが回復性であった。経皮経路においては、ラットにガイダンスの範囲の最高用量（2,000 mg/kg）の原体をばく露した試験において死亡及び毒性症状はみられなかったとの記載がある（農業工業会（1996））。以上の結果から区分外とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

[会社固有データ]

SIDS（2004）に本物質は米国食品医薬品局（FDA）ではGRAS（Generally Recognized As Safe）物質に認定されていることが記述されており、経口経路では区分外相当と考えられるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生毒性（急性）成分データ

[日本公表根拠データ]

（甲殻類（ニセネコゼミジンコ）の一種）の48時間EC50 = 1020 mg/L（SIDS, 2004）、魚類（ニジマス）の96時間LC50 = 7700 mg/L（SIDS, 2004）から区分外とした。

水生毒性（長期間）成分データ

[日本公表根拠データ]

慢性毒性データを用いた場合、無機化合物につき水中での挙動が不明であるが、甲殻類（オオミジンコ）の21日間NOEC（繁殖、生存）> 576 mg/L（SIDS, 2004）であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、無機化合物につき水中での挙動

が不明であるが、魚類(ニジマス)の96時間LC50 = 7700 mg/L (SIDS, 2004)であることから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。

水溶解度

8.7 g/100 ml (20 C) (ICSC, 2004)

残留性・分解性データなし

生体蓄積性データなし

土壌中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

13. 廃棄上の注意**廃棄物の処理方法**

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号に該当しない

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機溶剤等に該当しない製品

労働安全衛生法に該当しない。

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法に該当しない。

化審法に該当しない。

適用法規情報

食品衛生法: 指定添加物(法第10条、施行規則第12条・別表第1)

水道法: 有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101号)

農薬取締法: 特定農薬(法第2条2項、平15農水・環告1)

輸出貿易管理令別表第1の16の項に該当。

16. その他の情報**参考文献**

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2015 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

JIS Z 7252 (2014年)

2015 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実用性を対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。